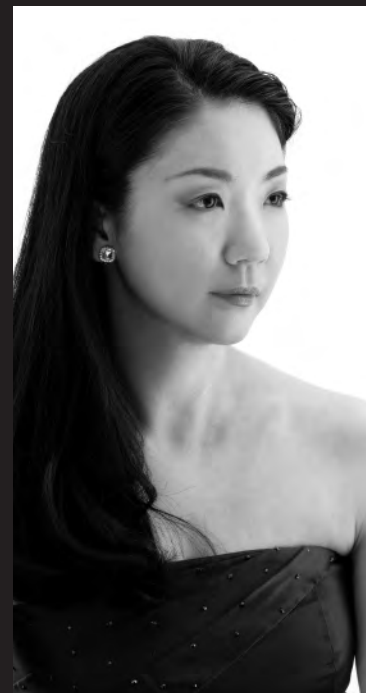


宮崎陽江 Yoë Miyazaki (ヴァイオリン)

ニューヨーク州イタカ市生まれ、幼少期をパリにて過ごし、3歳よりヴァイオリンを始める。桐朋学園高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業。その間、堀正文、山口裕之、江戸純子各氏に師事。同大学を卒業と同時に全額奨学金を得て米国タングルウッド音楽祭(小澤征爾監修)に参加。後、ジュネーヴ高等音楽院に留学、名匠ジャン=ピエール・ヴァレーズ氏に師事。在学中、室内楽をガボール・タカーチ、モダン・バロック両楽器をハンス=ハインツ・シュネーベルガー氏の下で学ぶ。1997年、同音楽院をブルミエ・プリ(一等賞)にて卒業。これまでにスイス、フランス、スペイン、オーストリアなど、ヨーロッパ各地での演奏会、国際音楽祭に多数出演、また、ソリスト・ド・ジュネーヴ、ジュネーヴ室内管弦楽団、ブドヴァイス管弦楽団、などと共演を果たす。2010年から「Yoë's Project」の活動の一環として、2012年までは師であるジャン=ピエール・ヴァレーズらとフランスの優れたピアノ五重奏曲の発掘・録音を行い、また2013年には同氏が音楽監督を務めるバス・ノルマンディー管弦楽団との共演も果たした。2014年にはスロヴァキアのブラティスラバにて、スロヴァキアフィルハーモニー管弦楽団と共演、2015年5月には、北東ドイツにて北東ドイツフィルハーモニック管弦楽団と共演し、2016年にはデュッセルドルフ管弦楽団との共演を予定している。日本では札幌コンサートホールKitara(07年～)、銀座王子ホール(08年)、カザルスホール(09年)、浜離宮朝日ホール(10～12年)でリサイタルを行い、ピアニスト菅野潤氏などと共演。また、2013年は矢崎彦太郎指揮、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団及び札幌交響楽団と共演し、バガニーニ「イ・バルビティOp.13」(ヴァイオリン+オーケストラ版)を日本で初演し好評を博す。2014年は、秋山和慶指揮、東京フィルハーモニー交響楽団、及び札幌交響楽団と共演、2015年夏には東京サントリーホールにてスロヴァキア・フィルハーモニー管弦楽団と再共演するなど、欧州・日本双方で音楽文化の普及・発展に取り組んでいる。2008年より現在までにオクタヴィア・ジャパンから5枚のCDをリリース。更にはスイスと日本を拠点としたスタイルを生かし、音楽の源流、作曲家の足跡を求めてヨーロッパ各地を取材・撮影したDVDシリーズで、ナヴァラ交響楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団と共演するなど、コンサートに留まらず、多方面で活動。2013年には「Yoë's Project」の活動の一環としてフランス作曲家によるピアノ五重奏曲集も発表している(欧州限定発売)。



レオシュ・スワロフスキー Leoš Svárovský (指揮)

チェコ生まれ。プラハ芸術アカデミーでノイマンに学び、プラハ国民歌劇場においてはコシュラーの下で副指揮者を務めた。その後、プラハ室内歌劇場、ヤナー・チェク・フィル、ブルノ・フィル、プラハ国民劇場バレエ管などの首席指揮者を歴任。また、2003～5年にはプラハ国立歌劇場芸術監督及び首席指揮者を務めた。これまでにシュターツカペレ・ドレスデン、ザルツブルク・モーツァルテウム管、リンツ・ブルックナー管、モスクワ放送チャイコフスキー響などに客演している。チェコ・フィルには定期的に客演している。また、スーク、オイストラフ、リッチャレリ、パターら名演奏家との共演を重ねている。プラハの春、プラハの秋、バイロイトなど著名音楽祭への参加も多い。現在スロヴァキア・フィル常任客演指揮者、ブルノ・フィルハーモニー協会名誉会員、プラハ芸術アカデミー准教授を務めている。スロヴァキア・フィル、ブルノ・フィル、プラハ国立歌劇場、ザルツブルク・モーツァルテウム管などの日本公演をいずれも成功に導く一方、国内オーケストラの客演の機会も多く、日本での評価を着実に高めている。なかでも'10年7月の都響創立45周年記念特別公演「売られた花嫁」でスロヴァキアの歌手陣も加わって名演。また'13年10月の都響定期と仙台フィル定期では、スロヴァキアの歌手陣の他に名門スロヴァキア・フィルハーモニー合唱団も参加し、ドヴォルザーク「スターバト・マーテル」の本場物の神髄を披露し、感銘を残した。'14年4月よりセントラル愛知交響楽団の音楽監督に就任。その手腕が期待されている。



札幌交響楽団 Sapporo Symphony Orchestra

札幌交響楽団は、1961年発足。北海道唯一のプロ・オーケストラとして「札幌」の愛称で親しまれている。現在、音楽監督は尾高忠明、首席客演指揮者ラドミル・エリシュカ、楽団員数は76名。北海道にふさわしい透明感のあるサウンドとパワフルな表現力で評価を高め、2011年の創立50周年を記念したヨーロッパ3カ国5都市を巡るツアーでは大きな成功を取めた。最高の音響を誇る札幌コンサートホールKitaraを本拠にした定期演奏会や北海道内各地、東京などの定期公演、青少年向け演奏会、夏の野外ステージなど年間の公演回数は約120回。さらに各地でアウトリーチ活動に取り組んでいる。



札幌コンサートホール *Kitara*
〒064-8649 札幌市中央区中島公園1-15
Tel.011-520-2000

[アクセス]

- 地下鉄南北線「中島公園」駅…徒歩約7分
 - 地下鉄南北線「幌平橋」駅…徒歩約7分
 - 市電「中島公園通」停…徒歩約4分
- ※駐車場はございません。お聴しの際は、公共の交通機関をご利用ください。

Photo: 馬場道浩(宮崎陽江) Dress Designer: 花嶋千賀